



ログインアカウントの作成

ONTAP 9

NetApp
December 20, 2024

目次

ログインアカウントの作成	1
ログインアカウントの作成の概要	1
ローカルアカウントアクセスを有効にする	2
Active Directoryアカウントアクセスの有効化	11
LDAPまたはNISアカウントアクセスの有効化	14

ログインアカウントの作成

ログインアカウントの作成の概要

クラスタおよび SVM の管理者アカウントは、ローカルまたはリモートのいずれかとして有効にできます。ローカルアカウントでは、アカウント情報、公開鍵、セキュリティ証明書がストレージシステムに格納されます。ADアカウント情報はドメインコントローラに保存されます。LDAPおよびNISアカウントは、LDAPサーバおよびNISサーバ上に存在します。

クラスタ管理者とSVM管理者

クラスタ管理者は、クラスタの管理 SVM にアクセスします。管理SVMと予約された名前のクラスタ管理者は `admin`、クラスタのセットアップ時に自動的に作成されます。

デフォルトのロールを持つクラスタ管理者は、`admin`クラスタとそのリソース全体を管理できます。クラスタ管理者は、必要に応じて別のロールを割り当てた別のクラスタ管理者を作成することができます。

SVM administrator は、データ SVM にアクセスします。クラスタ管理者は、必要に応じてデータ SVM と SVM 管理者を作成します。

SVM管理者には、デフォルトでロールが割り当てられ `vsadmin` ます。クラスタ管理者は、必要に応じて SVM 管理者に別のロールを割り当てることができます。

命名規則

リモートクラスタおよびSVMの管理者アカウントには、次の汎用名は使用できません。

- "adm"
- "ピン"
- "CLI"
- "デーモン"
- "ftp"
- "ゲーム"
- "停止"
- "LP"
- "メール"
- "男"
- "naroot"
- " NetApp "
- "ニュース"
- "誰もいない"

- "演算子"
- "ルート"
- "シャットダウン"
- "sshd"
- "同期"
- "sys"
- " uucp"
- "WWW"

マージされたロール

同じユーザに対して複数のリモートアカウントを有効にすると、そのユーザには各アカウントに対して指定されたロールがすべて割り当てられます。つまり、LDAPまたはNISアカウントにロールが割り当てられ、同じユーザのADグループアカウントにロールが割り当てられている `vsadmin-volume` 場合、`vsadmin` ADユーザはより包括的な機能を使用してログインし `vsadmin` ます。ロールは、 `_merged_` と呼ばれます。

ローカルアカウントアクセスを有効にする

ローカルアカウントアクセスの有効化の概要

ローカルアカウントでは、アカウント情報、公開鍵、セキュリティ証明書がストレージシステムに格納されます。コマンドを使用して、ローカルアカウントが管理またはデータSVMにアクセスできるようにすることができます `security login create`。

パスワードアカウントアクセスの有効化

コマンドを使用して、管理者アカウントがパスワードを使用して管理またはデータSVMにアクセスできるようにすることができます `security login create`。コマンドを入力すると、パスワードの入力を求められます。

タスクの内容

ログインアカウントに割り当てるアクセス制御ロールが不明な場合は、あとでコマンドを使用してロールを追加できます `security login modify`。

開始する前に

このタスクを実行するには、クラスタ管理者である必要があります。

ステップ

1. ローカル管理者アカウントがパスワードを使用して SVM にアクセスできるようにします。

```
security login create -vserver SVM_name -user-or-group-name user_or_group_name
-application application -authmethod authentication_method -role role -comment
comment
```

コマンド構文全体については、を参照してください ["ワークシート"](#)。

次のコマンドは、事前定義されたロールが割り当てられた `backup` クラスタ管理者アカウントが、パスワードを使用した管理SVMへのアクセスをengCluster許可し `admin1` ます。コマンドを入力すると、パスワードの入力を求められます。

```
cluster1::>security login create -vserver engCluster -user-or-group-name admin1 -application ssh -authmethod password -role backup
```

SSH公開鍵アカウントの有効化

コマンドを使用して、管理者アカウントがSSH公開鍵を使用して管理またはデータSVMにアクセスできるようにすることができます security login create。

タスクの内容

- アカウントがSVMにアクセスするためには、アカウントに公開鍵を関連付けておく必要があります。

ユーザアカウントへの公開鍵の関連付け

このタスクは、アカウントアクセスを有効にする前後どちらでも実行できます。

- ログインアカウントに割り当てるアクセス制御ロールが不明な場合は、あとでコマンドを使用してロールを追加できます security login modify。

クラスタでFIPSモードを有効にする場合は、サポートされているキーアルゴリズムのない既存のSSH公開鍵アカウントを、サポートされるキータイプで再設定する必要があります。FIPSを有効にする前にアカウントを再設定する必要があります。そうしないと、管理者認証が失敗します。

次の表に、ONTAP SSH接続でサポートされるホストキータイプアルゴリズムを示します。これらのキータイプは、SSH公開認証の設定には適用されません。

ONTAP リリース	FIPSモードでサポートされるキータイプ	FIPS以外のモードでサポートされるキータイプ
9.11.1以降	ECDSA - sha2 - nistp256	ecdsa-sha2-nistp256 + rsa-sha2-512 + rsa-sha2-256 + ssh-ed25519 + ssh-dss+ ssh-rsa
9.10.1以前	ECDSA - sha2 -nistp256 + ssh-ed25519	ecdsa-sha2-nistp256 + ssh-ed25519 + ssh-dss+ ssh-rsa



ssh-ed25519ホスト・キー・アルゴリズムのサポートは、ONTAP 9.11.1以降で削除されました。

詳細については、を参照してください ["FIPS を使用してネットワークセキュリティを設定する"](#)。

開始する前に

このタスクを実行するには、クラスタ管理者である必要があります。

ステップ

1. ローカル管理者アカウントがSSH公開鍵を使用してSVMにアクセスできるようにします。

```
security login create -vserver SVM_name -user-or-group-name user_or_group_name  
-application application -authmethod authentication_method -role role -comment  
comment
```

コマンド構文全体については、を参照してください ["ワークシート"](#)。

次のコマンドは、事前定義のロールが割り当てられた `vsadmin-volume` SVM管理者アカウントが、SSH公開鍵を使用してSVMにアクセスengData1できるようにし `svadmin1` ます。

```
cluster1::>security login create -vserver engData1 -user-or-group-name  
svadmin1 -application ssh -authmethod publickey -role vsadmin-volume
```

終了後

管理者アカウントに公開鍵が関連付けられていない場合は、アカウントがSVMにアクセスする前に関連付けておく必要があります。

[ユーザアカウントへの公開鍵の関連付け](#)

多要素認証 (MFA) アカウントを有効にする

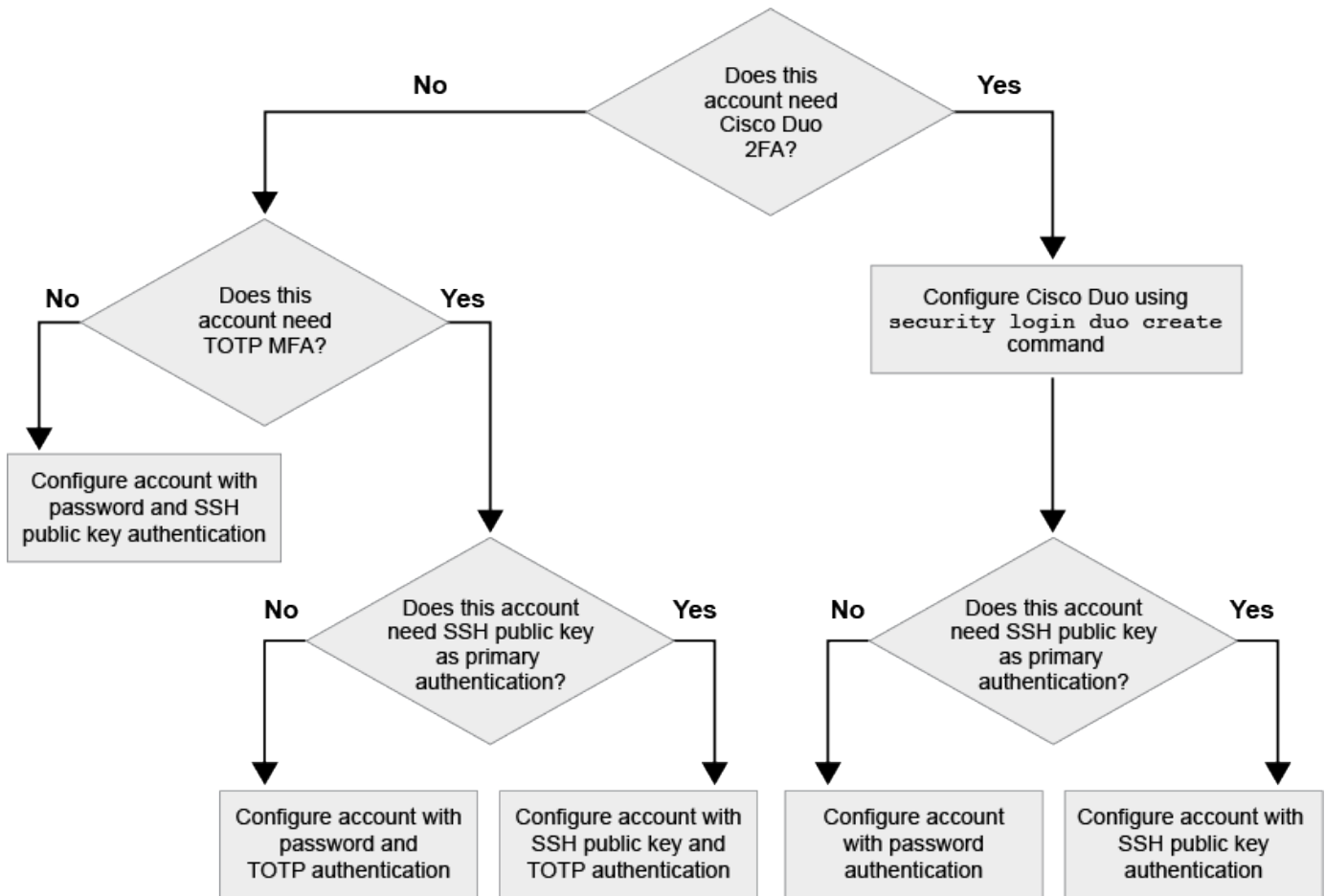
多要素認証の概要

多要素認証 (MFA) を使用すると、ユーザが管理Storage VMまたはデータStorage VMにログインする際に2つの認証方法を指定する必要があるため、セキュリティを強化できます。

ONTAPのバージョンに応じて、SSH公開鍵、ユーザパスワード、および時間ベースのワンタイムパスワード (TOTP) を組み合わせて多要素認証に使用できます。Cisco Duo (ONTAP 9 14.1以降) を有効にして設定すると、追加の認証方式として機能し、すべてのユーザの既存の方式を補完します。

使用可能なバージョン	最初の認証方法	2番目の認証方法
ONTAP 9 .14.1	SSH公開鍵	TOTP
	ユーザパスワード	TOTP
	SSH公開鍵	Cisco Duo
	ユーザパスワード	Cisco Duo
ONTAP 9 .13.1	SSH公開鍵	TOTP
	ユーザパスワード	TOTP
ONTAP 9.3	SSH公開鍵	ユーザパスワード

MFAが設定されている場合は、クラスタ管理者が最初にローカルユーザアカウントを有効にしてから、ローカルユーザがアカウントを設定する必要があります。



多要素認証を有効にする

多要素認証（MFA）を使用すると、管理SVMまたはデータSVMにログインする際にユーザに2つの認証方式の指定を要求することで、セキュリティを強化できます。

タスクの内容

- このタスクを実行するには、クラスタ管理者である必要があります。
- ログインアカウントに割り当てるアクセス制御ロールが不明な場合は、あとでコマンドを使用してロールを追加できません `security login modify`。

"管理者に割り当てられているロールの変更"

- 認証に公開鍵を使用している場合は、アカウントがSVMにアクセスする前にアカウントに公開鍵を関連付ける必要があります。

"ユーザアカウントに公開鍵を関連付ける"

このタスクは、アカウントアクセスを有効にする前後どちらでも実行できます。

- ONTAP 9.12.1以降では、FIDO2（Fast Identity Online）またはPIV（Personal Identity Verification）認証標準を使用して、SSHクライアントMFAにYubikeyハードウェア認証デバイスを使用できます。

SSH公開鍵とユーザパスワードを使用してMFAを有効にする

3以降では、クラスタ管理者がONTAP 9公開鍵とユーザパスワードを使用して、MFAを使用してログインするためのローカルユーザアカウントを設定できます。

1. ローカルユーザアカウントでSSH公開鍵とユーザパスワードを使用してMFAを有効にします。

```
security login create -vserver <svm_name> -user-or-group-name  
<user_name> -application ssh -authentication-method <password|publickey>  
-role admin -second-authentication-method <password|publickey>
```

次のコマンドでは、事前定義された `admin` ロールのSVM管理者アカウントで、SSH公開鍵とユーザパスワードの両方を使用してSVMにログインするengData1必要があり `admin2` ます。

```
cluster-1::> security login create -vserver engData1 -user-or-group-name  
admin2 -application ssh -authentication-method publickey -role admin  
-second-authentication-method password  
  
Please enter a password for user 'admin2':  
Please enter it again:  
Warning: To use public-key authentication, you must create a public key  
for user "admin2".
```

TOTPでMFAを有効にする

SSH.13.1以降では、ONTAP 9公開鍵またはユーザパスワードと時間ベースのワンタイムパスワード（TOTP）の両方を使用してローカルユーザに管理SVMまたはデータSVMへのログインを要求することで、セキュリティを強化できます。TOTPを使用してMFAのアカウントを有効にしたあと、ローカルユーザはにログインする必要があります"[設定を完了します](#)"。

TOTPは、現在の時刻を使用してワンタイムパスワードを生成するコンピュータアルゴリズムです。TOTPを使用する場合は、常にSSH公開鍵またはユーザパスワードに続く2番目の認証形式になります。

開始する前に

これらのタスクを実行するには、ストレージ管理者である必要があります。

手順

最初の認証方法としてユーザパスワードまたはSSH公開鍵を使用し、2番目の認証方法としてTOTPを使用してMFAを設定できます。

ユーザパスワードとTOTPでMFAを有効にする

1. ユーザパスワードとTOTPを使用して、ユーザアカウントで多要素認証を有効にします。

新規ユーザーアカウントの場合

```
security login create -vserver <svm_name> -user-or-group-name  
<user_or_group_name> -application ssh -authentication-method  
password -second-authentication-method totp -role <role> -comment  
<comment>
```

既存のユーザーアカウントの場合

```
security login modify -vserver <svm_name> -user-or-group-name  
<user_or_group_name> -application ssh -authentication-method  
password -second-authentication-method totp -role <role> -comment  
<comment>
```

2. TOTPを使用したMFAが有効になっていることを確認します。

```
security login show
```

SSH公開鍵とTOTPを使用してMFAを有効にする

1. SSH公開鍵とTOTPを使用した多要素認証のユーザアカウントを有効にします。

新規ユーザーアカウントの場合

```
security login create -vserver <svm_name> -user-or-group-name  
<user_or_group_name> -application ssh -authentication-method  
publickey -second-authentication-method totp -role <role> -comment  
<comment>
```

既存のユーザーアカウントの場合

```
security login modify -vserver <svm_name> -user-or-group-name  
<user_or_group_name> -application ssh -authentication-method  
publickey -second-authentication-method totp -role <role> -comment  
<comment>
```

2. TOTPを使用したMFAが有効になっていることを確認します。

```
security login show
```

終了後

- 管理者アカウントに公開鍵が関連付けられていない場合は、アカウントがSVMにアクセスする前に関連付けておく必要があります。

["ユーザアカウントへの公開鍵の関連付け"](#)

- TOTPを使用したMFAの設定を完了するには、ローカルユーザがログインする必要があります。

["TOTPを使用したMFA用のローカルユーザアカウントの設定"](#)

関連情報

詳細については、をご覧ください ["ONTAP 9での多要素認証 \(TR-4647\)"](#)。

TOTPを使用したMFA用のローカルユーザアカウントの設定

ONTAP 9 .13.1以降では、時間ベースのワンタイムパスワード (TOTP) を使用して多要素認証 (MFA) でユーザアカウントを設定できます。

開始する前に

- ユーザアカウントの第2の認証方法として、ストレージ管理者が必要です["TOTPでMFAを有効にする"](#)。
- プライマリユーザアカウントの認証方法は、ユーザパスワードまたは公開SSHキーである必要があります。
- スマートフォンと連携するようにTOTPアプリを設定し、TOTPシークレットキーを作成する必要があります。

Microsoft Authenticator、Google Authenticator、Authy、およびその他のTOTP互換オーセンティケーターがサポートされています。

手順

1. 現在の認証方法でユーザーアカウントにログインします。

現在の認証方法は、ユーザパスワードまたはSSH公開鍵である必要があります。

2. アカウントでTOTP設定を作成します。

```
security login totp create -vserver "<svm_name>" -username  
"<account_username >"
```

3. アカウントでTOTP設定が有効になっていることを確認します。

```
security login totp show -vserver "<svm_name>" -username
"<account_username>"
```

TOTPシークレットキーのリセット

アカウントのセキュリティを保護するために、TOTPシークレットキーが侵害されたり紛失したりした場合は、それを無効にして新しいシークレットキーを作成する必要があります。

キーが侵害された場合にTOTPをリセット

TOTPシークレットキーが侵害されたにもかかわらずアクセスできる場合は、侵害されたキーを削除して新しいキーを作成できます。

1. ユーザパスワードまたはSSH公開鍵と侵害されたTOTPシークレットキーを使用してユーザアカウントにログインします。
2. 侵害されたTOTPシークレットキーを削除します。

```
security login totp delete -vserver <svm_name> -username
<account_username>
```

3. 新しいTOTPシークレットキーを作成します。

```
security login totp create -vserver <svm_name> -username
<account_username>
```

4. アカウントでTOTP設定が有効になっていることを確認します。

```
security login totp show -vserver <svm_name> -username
<account_username>
```

キーを紛失した場合にTOTPをリセット

TOTPシークレットキーが失われた場合は、ストレージ管理者に問い合わせてください"[キーを無効にします](#)"。キーが無効になったら、最初の認証方法を使用してログインし、新しいTOTPを設定できます。

開始する前に

ストレージ管理者がTOTPシークレットキーを無効にする必要があります。ストレージ管理者アカウントがない場合は、ストレージ管理者に連絡してキーを無効にしてください。

手順

1. ストレージ管理者がTOTPシークレットを無効にしたら、プライマリの認証方法を使用してローカルアカウントにログインします。

2. 新しいTOTPシークレットキーを作成します。

```
security login totp create -vserver <svm_name> -username  
<account_username >
```

3. アカウントでTOTP設定が有効になっていることを確認します。

```
security login totp show -vserver <svm_name> -username  
<account_username>
```

ローカルアカウントの**TOTP**シークレットキーを無効にする

ローカルユーザの時間ベースのワンタイムパスワード（TOTP）シークレットキーが失われた場合、失われたキーをストレージ管理者が無効にしてからユーザが新しいTOTPシークレットキーを作成する必要があります。

タスクの内容

このタスクは、クラスタ管理者アカウントからのみ実行できます。

ステップ

1. TOTPシークレットキーを無効にします。

```
security login totp delete -vserver "<svm_name>" -username  
"<account_username>"
```

SSL証明書アカウントの有効化

コマンドを使用して、管理者アカウントがSSL証明書を使用して管理またはデータSVMにアクセスできるようにすることができます security login create。

タスクの内容

- アカウントがSVMにアクセスするためには、CA署名済みサーバデジタル証明書をインストールしておく必要があります。

CA署名済みサーバ証明書の生成とインストール

このタスクは、アカウントアクセスを有効にする前後どちらでも実行できます。

- ログインアカウントに割り当てるアクセス制御ロールが不明な場合は、あとでコマンドを使用してロールを追加できます security login modify。

管理者に割り当てられているロールの変更



クラスタ管理者アカウントの場合、証明書認証は、`ontapi`の`rest`各アプリケーションでサポートされ`http`です。SVM管理者アカウントの場合、証明書認証はアプリケーションと`rest`アプリケーションでのみサポートされ`ontapi`です。

ステップ

1. ローカル管理者アカウントがSSL証明書を使用してSVMにアクセスできるようにします。

```
security login create -vserver SVM_name -user-or-group-name user_or_group_name  
-application application -authmethod authentication_method -role role -comment  
comment
```

コマンド構文全体については、を参照してください "[ONTAP のマニュアルページ - リリース別](#)".

次のコマンドは、デフォルト `vsadmin` ロールのSVM管理者アカウントが、SSLデジタル証明書を使用してSVMにアクセスengData2できるようにし `svmadmin2` ます。

```
cluster1::>security login create -vserver engData2 -user-or-group-name  
svmadmin2 -application ontapi -authmethod cert
```

終了後

CA署名済みサーバデジタル証明書がインストールされていない場合は、アカウントがSVMにアクセスする前にインストールしておく必要があります。

CA署名済みサーバ証明書の生成とインストール

Active Directory アカウントアクセスの有効化

コマンドを使用して、Active Directory (AD) のユーザアカウントまたはグループアカウントが管理SVMまたはデータSVMにアクセスできるようにすることができます

security login create。ADグループのすべてのユーザは、グループに割り当てられたロールを使用してSVMにアクセスできます。

タスクの内容

- アカウントがSVMにアクセスするためには、ADドメインコントローラからクラスタまたはSVMへのアクセスを設定しておく必要があります。

Active Directory ドメインコントローラアクセスの設定

このタスクは、アカウントアクセスを有効にする前後どちらでも実行できます。

- SSH.13.1以降では、ユーザパスワードを使用して、プライマリまたはセカンダリの認証方式としてONTAP 9公開鍵を使用できます。

SSH公開鍵をプライマリ認証として使用することを選択した場合、AD認証は行われません。

- ONTAP 9 .11.1以降では、AD LDAPサーバでサポートされている場合に使用できます"[nsswitch認証のためのLDAP高速バインド](#)".

- ログインアカウントに割り当てるアクセス制御ロールが不明な場合は、あとでコマンドを使用してロールを追加できます `security login modify`。

管理者に割り当てられているロールの変更



ADグループアカウントへのアクセスは、`ontapi`および`rest`アプリケーションでのみサポートされ`SSH`ます。ADグループは、多要素認証に一般的に使用されるSSH公開鍵認証ではサポートされません。

開始する前に

- クラスタ時間とADドメインコントローラの時間の誤差が5分以内になるように同期する必要があります。
- このタスクを実行するには、クラスタ管理者である必要があります。

ステップ

1. ADユーザまたはグループの管理者アカウントがSVMにアクセスできるようにします。

- ADユーザの場合：*

ONTAPバージョン	第1の認証方式	第2の認証方式	コマンド
9.13.1以降	公開鍵	なし	<pre>security login create -vserver <svm_name> -user-or-group-name <user_name> -application ssh -authentication-method publickey -role <role></pre>

ONTAPバージョン	第1の認証方式	第2の認証方式	コマンド
9.13.1以降	ドメイン	公開鍵	<p>新規ユーザーの場合</p> <pre>security login create -vserver <svm_name> -user-or-group-name <user_name> -application ssh -authentication-method domain -second -authentication-method publickey -role <role></pre> <p>既存のユーザーの場合</p> <pre>security login modify -vserver <svm_name> -user-or-group-name <user_name> -application ssh -authentication-method domain -second -authentication-method publickey -role <role></pre>
9.0以降	ドメイン	なし	<pre>security login create -vserver <svm_name> -user-or-group-name <user_name> -application <application> -authentication-method domain -role <role> -comment <comment> [-is-ldap-fastbind true]</pre>

◦ ADグループの場合：*

ONTAPのバージョン	第1の認証方式	第2の認証方式	コマンド
9.0以降	ドメイン	なし	<pre>security login create -vserver <svm_name> -user-or-group-name <user_name> -application <application> -authentication-method domain -role <role> -comment <comment> [-is-ldap- fastbind true]</pre>

+ コマンド構文全体については、を参照してください。["管理者認証およびRBAC設定用のワークシート"](#)

終了後

ADドメインコントローラからクラスタまたはSVMへのアクセスを設定していない場合は、アカウントがSVMにアクセスする前に設定しておく必要があります。

[Active Directoryドメインコントローラアクセスの設定](#)

LDAPまたはNISアカウントアクセスの有効化

コマンドを使用して、LDAPまたはNISのユーザアカウントが管理またはデータSVMにアクセスできるようにすることができます `security login create`。LDAPサーバまたはNISサーバからSVMへのアクセスを設定していない場合は、アカウントがSVMにアクセスする前に設定しておく必要があります。

タスクの内容

- グループアカウントはサポートされていません。
- アカウントがSVMにアクセスするためには、LDAPサーバまたはNISサーバからSVMへのアクセスを設定しておく必要があります。

[LDAPサーバまたはNISサーバアクセスの設定](#)

このタスクは、アカウントアクセスを有効にする前後どちらでも実行できます。

- ログインアカウントに割り当てるアクセス制御ロールが不明な場合は、あとでコマンドを使用してロールを追加できます `security login modify`。

[管理者に割り当てられているロールの変更](#)

- .4以降では、LDAPサーバまたはONTAP 9サーバを介したリモートユーザに対して多要素認証（MFA）がサポートされます。
- ONTAP 9 .11.1以降では、LDAPサーバでサポートされていれば使用できます"[nsswitch認証のためのLDAP高速バインド](#)"。
- LDAPの既知の問題のため、LDAPユーザアカウント情報のフィールド（、`userPassword`など）では（コロン）文字を`gecos`使用しないで`:`ください。そうしないと、そのユーザの検索操作が失敗します。

開始する前に

このタスクを実行するには、クラスタ管理者である必要があります。

手順

1. LDAPまたはNISのユーザまたはグループアカウントがSVMにアクセスできるようにします。

```
security login create -vserver SVM_name -user-or-group-name user_name
-application application -authmethod nsswitch -role role -comment comment -is
-ns-switch-group yes|no [-is-ldap-fastbind true]
```

コマンド構文全体については、[を参照してください "ワークシート"](#)。

["ログインアカウントの作成または変更"](#)

次のコマンドは、事前定義されたロールが割り当てられた `backup` LDAPまたはNISのクラスタ管理者アカウントが、管理SVMにアクセスできるengClusterのようにし `guest2` ます。

```
cluster1::>security login create -vserver engCluster -user-or-group-name
guest2 -application ssh -authmethod nsswitch -role backup
```

2. LDAPユーザまたはNISユーザのMFAログインを有効にします。

```
security login modify -user-or-group-name rem_usr1 -application ssh
-authentication-method nsswitch -role admin -is-ns-switch-group no -second
-authentication-method publickey
```

認証方法はと指定でき、2つ目の認証方法はと nsswitch`指定できます `publickey。

次の例は、MFA認証を有効にします。

```
cluster-1::*> security login modify -user-or-group-name rem_usr2
-application ssh -authentication-method nsswitch -vserver
cluster-1 -second-authentication-method publickey"
```

終了後

LDAPサーバまたはNISサーバからSVMへのアクセスを設定していない場合は、アカウントがSVMにアクセスする前に設定しておく必要があります。

[LDAPサーバまたはNISサーバアクセスの設定](#)

著作権に関する情報

Copyright © 2024 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および/または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用権を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用権については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。